

サロベツ原野だより

Vol.15 -No.3

【HP】 <http://www.sarobetsu.or.jp> 【E-mail】 info@sarobetsu.or.jp

〒098-4100
北海道天塩郡豊富町字豊
西6条6丁目
【TEL】 0162-82-3950
【FAX】 0162-82-3950



目次

- 1. 表紙・もくじ …P.1
- 2. 活動内容
 - ① サロベツ湿原に設置されている緩衝帯 …P.2
……嘉藤 慎
 - ② 特定外来生物「オオハンゴンソウ」の …P.3
除去について
……村田 朋弥
 - ③ なまら!!サロベツ∞クラブで夏のキャ …P.4-5
ンプを実施しました
……吉原 努
- 3. サロベツのタンチョウについて …P.6
……長谷部 真・廣瀬 実穂子
- 4. コラム …P.7
 - ① サロベツ今昔物語
……野口 多美治
 - ② とよとみの民話
……豊富高校 郷土研究部編
- 5. 裏表紙・編集後記 …P.8

お知らせ

**2022年度版サロベツカレンダーが
北海道新聞に掲載されました**



(2021/8/28 北海道新聞 朝刊より)

職員が撮影したサロベツの美しい自然の写真や、花の開花日・鳥の確認日などもまとめられたカレンダーです。通販も受付中！申込方法は6ページをご覧ください。

2. 活動内容

① サロベツ湿原に設置されている 緩衝帯について

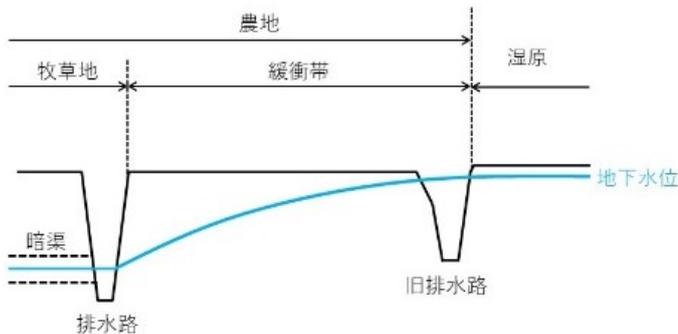
……生物環境保全部 嘉藤 慎

緩衝帯という言葉聞いたことがあるでしょうか？ サロベツ湿原においては湿地と農地の間に設置された帯状の「場所」であり、はた目からは分かりづらい地味な場所ではありますが、湿地環境と農地の両方が共存共栄してゆくために重要な役割を果たしています。

サロベツでは皆様ご存知の通り、酪農が重要な産業となっています。湿原を切り開き広大な農地が作り上げられましたが、もともと地盤が柔らかい泥炭であることから地盤の沈下が起き、排水がうまく行われなくなることで農地が湿地のようになるなどの支障が出ています。

その一方サロベツ湿原の一部では、農地を改良すべく水路を作ったことで農地だけでなく湿原の水も排水され、湿原の水位の低下が起こっています。湿原の地下水位が下がり乾燥が進むと、湿原という特殊な環境によって保たれていた生態系が壊れてしまうことが心配されます。

このような状況の中で、環境配慮設備としての緩衝帯の設置工事が始まりました。この工事は2019年まで続き、全6カ所、総延長約10kmとなる緩衝帯が完成しました。緩衝帯を中心に片側に農地、もう片側には湿地、という形に整備されました。農地と緩衝帯の間には新しく水路が作られ、緩衝帯と湿地の間に残された元々の水路は一部を埋め戻し、堰き止めました。こうして農地と湿原の間に緩衝帯があることで水位の差が緩やかになり、農地では地下水位を下げ、湿原では地下水位を保てるようになりました。



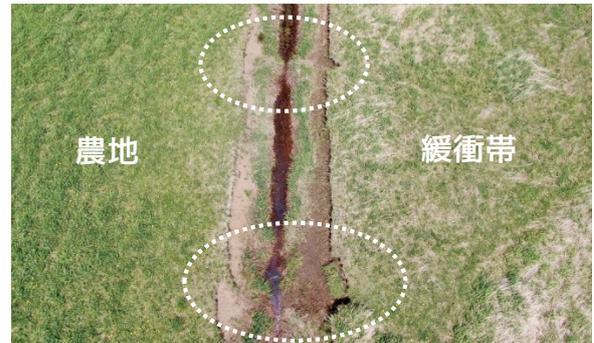
緩衝帯の模式図

新しく整備された緩衝帯の効果を検証するため、今年度からモニタリングを行っています。排水路の変形や、緩衝帯に水が溜まるなど、排水する能力が低下する状態になっている箇所が無いかなどを、ドローンも使用しながら調査しています。今年の調査では、水路の変形や水が溜まった帯水箇所が数か所見つかりましたが、湿原の水位低下は確認できていないため、緩衝帯を設置した効果が出ていると考えています。

地域の産業として農地の維持はとても重要ですが、地域を特徴づけるサロベツ湿原の維持も同様に重要です。今後も地域の農業と豊かな自然環境の共生ができる緩衝帯を維持できるようにしたいと思います。



モニタリング作業の様子



緩衝帯が変形した様子



緩衝帯に水が溜まった様子

② 特定外来植物「オオハンゴンソウ」の除去について

……生物環境保全部 村田 朋弥

オオハンゴンソウという植物をご存知でしょうか？ オオハンゴンソウは北米を原産とするキク科の植物で、大きくなると背丈2m程まで成長し、キクによく似た黄色い花を咲かせます。明治中期に観賞用として導入されて以来、ほぼ日本全国に広がりました。現在では、生態系へ被害を及ぼしたり及ぼす恐れがあることから、特定外来生物として指定されています。



オオハンゴンソウの花

オオハンゴンソウは大きな株になると地下茎を発達させ数本の茎を伸ばすので、引き抜こうとしても茎が根元でちぎれて根が残り、そこからまた新たに芽が出ます。そのため、大株を除去する時にはスコップで地下茎ごと掘り出すことが特に重要です。では小さな株はどうかというと、一見オオハンゴンソウが生えていないような場所でも足元の草をかき分けると背丈10cmほどの小さな株が群生しているのを見つけことがあります。これは土の中に混ざった種子がひそかに芽吹いて育ったもので、「地下茎による増殖力が強く」「埋土種子による繁殖力も強い」ことが、オオハンゴンソウの根絶を難しいものになっています。

サロベツ原野は利尻礼文サロベツ国立公園内にあり、貴重な環境で希少な在来種が多く生育していますが、もしオオハンゴンソウが増えてくると、在来種子の生育に影響を与える恐れがあることから、オオハンゴンソウを中心に特定外来植物を除去する活動を継続して行っています。

植物の種子は、私たちの車や靴底にはりついたり、農業用や工事用の重機の隙間に紛れ込むことで広く移動することがあります。豊富町には国立

公園に定められた希少な湿原があり、広く知られた酪農地帯でもあることから、人や車の動きが活発なため、入ってきてほしくない種子の侵入を完全に防ぐことは難しく、気を付けていても知らぬ間に種子を運んでいるかもしれません。そのためにも、入ってきてしまったものを継続して取り除いていく必要があるでしょう。

現在は主に、今までにオオハンゴンソウが確認されている場所で除去活動を行っています。豊富町では国立公園と私有地が隣接する場所も多いため、農家の皆様の協力のもとに活動しています。



藪のなかで育つ小さな株のオオハンゴンソウ



藪をかき分けて探す様子

稚咲内砂丘林の林縁のあたりでも継続して活動を行っていますが、前年度までの除去活動の効果が出たためか、今年度は1時間に1人が除去したオオハンゴンソウの重量が大きく減少しました。今年度は特に、藪の中で芽吹いた小さな株が群生している様子が作業中目に付きます。これはつまり、大きな株は減ってきたものの、土の中の種子から育った小さな株はまだ残っていることを示していると考えられます。

外来種が侵入する以前の環境に近づけていくため、今後は小さいオオハンゴンソウを中心に除去活動を行う予定です。また、除去活動を進めながら、どのようにすれば新たな侵入を防ぐことができるのかも考えていきたいと思えます。

③ なまら!!サロベツ∞クラブで
夏のキャンプを実施しました
……地域環境教育部 吉原 努

令和3年7月29～30日の日程で、なまサロキャンプを行いました。例年なまサロキャンプは私の雨男ぶりを発揮してしまい、悪天候になることが多かったのですが、今年は一転、夏晴れとなりました。当日午前中は稚咲内海岸の砂浜で海遊びをしました。ワークシートを基に大きな二枚貝や巻貝、貝殻の破片などを広い集め観察した他、ザラザラつるつるなど色々な手触りの石を見つけたりしました。砂浜を掘り、海水を溜め込んでダムづくりをしたり、波打ち際で座りながら押し寄せる波に体を預けて遊び、また浅瀬をアザラシのようにグルグルと回転しながら泳ぐ子もいました。



お昼は稚咲内地区の生活館で昼食をとりました。海で体いっぱい遊んだ後だったためさぞかし美味しかったことでしょう。

午後からは活動場所を兜沼公園へ移しました。兜沼でもワークシートを使い、園内を散策しました。公園にはハルニレ、ミズナラ、キハダ、オニグルミ、ナナカマド等多様な樹種が自生していることから、手のひらの形、鳥の羽根の形、葉っぱの縁がナミナミのような形などそれぞれ形の違う葉を探した他、虫取り網でミヤマクワガタなどの昆虫採集もしました。



海、森と異なるフィールドで活動した後は、夕食を調理しました。メニューはキャンプの定番のカレーライスです。主に野菜切り班、火起こし班に分かれて作業しました。野菜などスムーズに切っている子が多く、家でお手伝いをしている様子が垣間見えました。



火起こし班は大人の手助けは最小限に、焚き付けの代わりにとして園内に落ちている小枝やシラカバの樹皮なども集めて使いました。最初は中々火が点かず焚き付けばかりを入れてしまい、白い煙がもくもくと上がる場面もありましたが、最後はしっかり炭に着火しました。



子どもたち同士声を掛け合いながら、みんなで協力して調理し、1時間ほどでようやくカレーが完成。大きいお鍋で作る具沢山のカレーは格別の美味しさとなったようでした。



カレーを食べたあとは、こちらも定番のマシュマロ焼き。割り箸にマシュマロを1つずつ刺し、炭火で焦げ目を付けて食べました。



兜沼に夜の帳が降り始めた頃、宿泊するコテージ裏の街灯にコウモリがやって来ました。コウモリの種類までは暗くて分かりませんでした。野生のコウモリを観察できるのは中々貴重な体験となったようです。初めてコウモリを見た子もいました。日が暮れてからは花火をしました。花火の煙で辺りが見えにくくなると、沼の方から「ギャーギャー！」と不思議な鳴き声が聞こえました。何かと思い皆で沼の方を見ると、アオサギの群れがこちらの方向へ飛んできました。どうやら花火の煙に驚いてやってきたようです。



今年は町内でヒグマの目撃情報が相次いでいたことから、テント泊ではなくコテージ泊となりました。早く寝る子もいましたが、中には遅くまで起きていた子もいたようです。ちなみに私の隣にいた子は、中々寝付けず眠くなるまで夜中まで起きていたと言いきり、目を開けて私の方を見ながらじーっと座っていました。途中から眠気に勝てなくなり、ウトウトし始め、すやすやと眠りに落ちたようでした。

翌朝、鳥の囀りとともに目が覚めた、元気の有り余った子ども達は、寝ているスタッフを起こし、早朝の昆虫採集へ出かけました。その後朝食づくりの時間になると、夕食時と同様にそれぞれが手際よく準備を進めてくれました。特にサンドイッチ用のスクランブルエッグを作る作業は人気で、お友達が焼いたスクランブルエッグもみんなで美味しく食べました。



最後は豊富温泉で温泉に浸かり、疲れを癒し、無事キャンプを締めくくりました。



3. サロベツのタンチョウについて

① タンチョウ調査の強い味方

……生物環境保全部 長谷部 真

サロベツにタンチョウが繁殖し始めたのは2004年からです。その後数が増え、2020年には17羽が確認されています。タンチョウの巣は湿原の奥地にあり、見つけるのが困難です。これまでは秋に牧草地などに出てくる親子を観察していましたが、最近ドローンという調査の強い味方が現れました。

私たちは2020年からドローンを用いて上空からタンチョウの巣や親子を探しています。これまではヘリコプターやセスナを飛ばさなければこのような調査はできませんでしたが、ドローンにより気軽に調査を行えるようになりました。2021年はドローンにより湿原内のタンチョウの巣や親子を発見しています。

9月になると早いつがいは牧草地に出てきます。10月は多くの個体が集まる時期です。これからタンチョウの姿を見かける機会があると思いますが、もしみつけてもそっと見守っててください。タンチョウは雪が降り道東の越冬地に向かうまでサロベツに滞在します。



ドローンで見つけた湿原内のタンチョウ親子 (2021/5/27)

白黒赤のイメージのタンチョウですが、ヒナの時は薄い茶色をしています。知ってた？



認定 NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク

② オリジナルタンチョウグッズ

のお知らせ

……総務会計管理部 廣瀬 実穂子

サロベツのタンチョウの保護・普及啓発のため、新しくタンチョウのオリジナルグッズを製作しました。

タンチョウステッカー

【サイズ】直径 10 cm

【金額】440 円 (税込)

近年サロベツ周辺でも繁殖するようになってきたタンチョウが、ついにサロベツ湿原センターオリジナルステッカーシリーズに新登場！

防水ステッカーなので、お車や自転車などにも貼ってお使いいただけます。



※デザインは一部変更になる場合がございます

＼ 通販も受付中！ /

お電話・FAX・メールで

【お名前】【ご住所】【電話番号】

【ご希望の商品】をご連絡下さい。

入金の確認後に商品を発送いたします。

タンチョウステッカー1枚の場合、送料 84 円 (普通郵便) と合わせて 524 円 (税込) です。

連絡先は表紙に載ってるよ。

他にもいろいろな商品があるので、ぜひホームページを見てみてね!

4. コラム

① サロベツ今昔物語

～自分の中の昭和史 (30)～

……豊富町・豊富町郷土研究会
野口 多美治

昭和 44 年、豊中赴任～昭和 50 年まで町内では学校統廃合が加速する。特に日曹炭鉱の閉山により日曹小中学校の廃校は大きく教員は町内の学校に過配置される事となった。其の為、昭和 51 年 3 月私自身も異動希望を出さざるをえなくなった。7 年間の豊中生活では詳しくは論じられないが政治的・組合活動など様々な要因で課題、問題も多く出たが自分を鍛える一要素になった。昭和 51 年 4 月礼文町立船泊中学校に転勤、島の子供たちの純真さにストレスも解消、海釣りの醍醐味も味わい、また「うに」や「あわび」の味覚に潤い充実した 5 年間だった。昭和 56 年 4 月、私が希望したわけでもないのに再度豊富中学校に異動になる。平教員が 5 年間で前任校へ再異動させられるとは考えもしなかった。裏で何があったのか知る由もないが……。ただ、この移動が私の人生にとって大きな試練となる。移動してびっくり、以前とは全く変わった環境になっていた。当時全国的に広がっていた荒れた状況、豊中もその真っ只中にあるのである。「たばこ」の吸引、校舎破壊、子供同士また教師への暴行などが日常茶飯事に起きていた。豊中には平成 2 年 3 月まで在校、同年 4 月、稚内上修徳中学校に異動、5 年間で過ごし 36 年間の教員生活を終える。昭和時代を生きた一人として全く自分史にこだわり時代背景を十分に取り込めなかった事を大いに反省しています。稚拙な文章で長い間付き合っていた皆様には衷心よりお詫びとお礼と感謝を申し上げます。有難う御座いました。

野口多美治さまによる連続コラムは今回が最終回です。長い間ご愛読いただき、まことにありがとうございました！



認定 NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク

②

とよとみの民話

とよとみ
北海道豊富高等学校 郷土研究部

第四話 養と熊

穴に入った、おかみさんは、着ている蓑で寝ている熊の顔をなでまわしました。蓑があたって、むずむずした熊は、無意識のうちに大きな手で、おかみさんを自分の後ろに引き寄せました。熊の後ろにまわったおかみさんは、今度は熊の背中を同じ様に、蓑を使ってゆっくり押ししました。そうすると熊はいやいやながら、少しずつ外に出されていくのでした。熊が穴から顔を見せると音吉さんは、

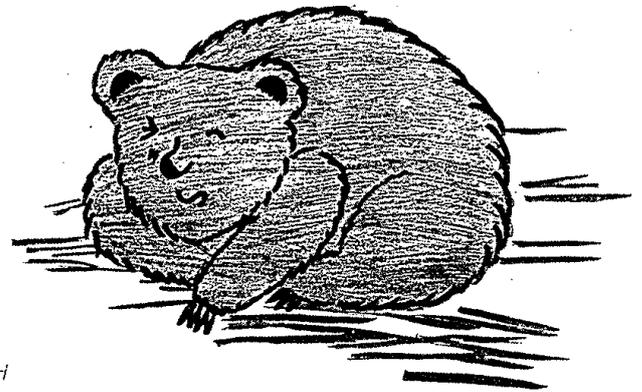
「ほら、熊が出てきただろう。」

と言って、持っていた銃をゆっくりとかまえ熊が完全に出てきたのを確認して、

「ドーン。」

一発で撃ち殺しました。

音吉さん夫婦の熊撃ちを見て、三郎さんはこんな変わった方法があるのかと感心しました。



E.H

5. 編集後記

北の地とは思えないような猛暑に見舞われた7、8月、暑いうえに雨も降らず、湿原はいつになくカサカサに乾燥しておりました。普段は赤茶色の泥炭水が溜まり、底が知れない池のようになっている展望台の足元も今年は完全に干上がってしまい、意外と底が浅かったことが図らずもわかりました。この池では時折小さな魚が泳いでいる様子が見かけられていたのですが、彼らはいったいどこへ行ってしまったのでしょうか。謎は秋と共に深まるばかりです。

最近の木道ではウメバチソウ、ミヤマアキノキリンソウ、エゾリンドウが白・黄色・藍色の花を咲かせ、湿原の花の季節のフィナーレを彩ってくれています。8月27日に北海道に緊急事態宣言が発出されたことで、9月16日現在、湿原センターは三度目の臨時休館を余儀なくされております。この度の臨時休館は今のところ9月30日までですが、木道は開いておりますので、感染対策を抜かりなく行いつつ、皆様のお越しをお待ちしております。

(NPO 職員 高橋梨沙)



NPO 法人

サロベツ・エコ・ネットワークとは？

当法人は、サロベツ及び周辺の自然と地域を愛する人々が集い、自然環境の保全活動、調査研究活動及び環境教育活動を通して、自然と人間との共存の大切さを広く啓蒙し、併せて地域の発展、まちの活性化に寄与し、サロベツ及び周辺の豊かで美しい自然を次世代に引き継ぐことを目的として平成16年5月に設立されました。

活動の目的にご理解いただき、共に汗を流し、ご協力下さる会員を随時募集しております。あなたの参加が活動を支えます。どうぞご加入ください。

会員になっていただける方は事務局までご一報下さい。申込方法と会費の振込先をご連絡いたします。また、会の運営を支えるご寄附も随時受け付けております。

3千円以上のご寄附は各種税控除の対象となります。詳しくは、表紙に掲載している事務局の連絡先までお問い合わせください。



<現在の会員数(2021年9月16日時点)>

正会員：68名 / 賛助会員：26団体・13個人
サポート会員：113名【合計】220名・団体

※転居等により住所などのご連絡先に変更が生じた場合は、お早めに事務局までご連絡下さい。事務局の連絡先は表紙の上部にごございます。